

青果物の卸売価格の短期予測に関する研究(第2報) :
イチゴの卸売価格の要因分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋元, 浩一, 黒田, 佐俊, 石代, 正義, 土屋, 智裕 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/5785

青果物の卸売価格の短期予測に関する研究 (第2報) *

——イチゴの卸売価格の要因分析——

秋元浩一・黒田佐俊・石代正義**・土屋智裕***

農産物流通科学研究室

(1985年7月31日受理)

Prediction of Vegetable and Fruit Prices in the Central Wholesale market (Part II)

Analysis of Factors in Auction Price of Strawberries

Kouichi AKIMOTO, Suketoshi KURODA, Masayoshi ISHISHIRO
and Tomohiro TUCHIYA

Laboratory of Food Distribution Science

(Received July 31, 1985)

SUMMARY

The factors involved in the strawberry auction data for 1983 were investigated with the purpose of predicting the auction price, that were supplied by receipt agency of representative wholesale markets in Japan. The results are as follows :

1. The senior varieties in the amounts shipped the market were in the order of 'Harunoka', 'Danah', 'Reikoh' and 'Houkou'. These accounted for about 70 percent of all strawberries shipped in a year.

2. All prices for varieties of 'Hougyoku', 'Meihou', 'Morioka 16 gou' and 'Morioka 19 gou' were high.

3. The pattern of a time series of the quantity arrived was generally the reverse of the character 'S' pattern, with March at the top and August at the bottom. A time series pattern of the price per kg was patterned after the character 'S' and was in common with kinds.

4. An auction was held each shipper, grade and size class. The combination of grade and class size of 'Harunoka' amounted to 320 different kinds. The greatest quantity of all combinations was in grade of 'Shuu' and class of 'M', amounting to 20 percent of all 'Harunoka'. The relation between amount every shipper and the price per kg had not. The lowest price of all shipper was from 60 to 80 percent of the highest. In December the difference in prices was great, the percentage was 35 percent.

5. The number of shippers was 179 a year. The shipper of the greatest volume for a year was a producer in Tochigi Pref. This producer shipped goods of 5 varieties for 7 months, and the most

* 本報の一部は、園芸学会昭和60年度秋季大会(1985年10月、神戸)で発表した。

** 現在、愛知県農業改良普及所

*** 現在、岐阜県農業試験場

number of the combination of grade and class of size was account for 60 kinds.

6. The factors were analyzed by means of multiple regression analysis on the price of strawberry cartons with a grade of 'Shuu' and class of 'M' produce of a Fukuoka shipper who marketed the most strawberries of all 'Harunoka' varieties in a year. An equation for prediction of the auction prices of the next day was formulated; the multiple correlation coefficient was 0.994 and the price was estimated with a probability of 98.8 percent for the date obtained up to the present.

Res. Bull. Fac. Agr. Gifu Univ. (50) : 77—84, 1985.

要 約

イチゴの卸売価格の予測に先立って、荷受会社の売立情報によるデータの要因分析を行なった。供試データは、我が国で代表的な荷受会社の1983年1年分の仕切データをもとにした。主な結果は次のとおりである。

1. 入荷量の多い品種は順に「はるのか」、「ダナー」、「麗紅」、「宝交」であり、この4品種で年間イチゴ取り扱い量の約7割を占めている。

2. 月別に品種毎の平均kg単価を比較すると「芳玉」、「明宝」、「盛岡16号」、「盛岡19号」といった品種が高値となっていた。

3. イチゴ全体の入荷量の時系列パターンはおおむね3月を最高、8月を最低とする逆S字カーブを描くのに対し、平均kg単価はおおむねS字カーブを描いた。また平均kg単価の時系列パターンは全品種とも共通で、品種特有の傾向は認められなかった。

4. セリは生産者毎に等・階級別に行なわれるが、年間最大の入荷量となる品種「はるのか」の等・階級の組み合わせは延べ320にも及んだ。最も入荷量の多い等・階級の組み合わせは「秀 M」で、「はるのか」全量の約20%を占めた。この「秀 M」について生産者毎に月平均kg単価を比較すると、生産者の出荷量と平均kg単価との関係は認められなかった。また生産者の違いによる最高値と最安値を比較した場合、最安値は最高値の60~80%であったが、12月は35%と大きな価格差があった。

5. 年間179の生産者のうち、年間を通じて最も入荷量の多かった生産者は栃木県の実産者であった。これはイチゴ全入荷量の4.8%であった。この生産者からは7ヶ月に亘って5品種が出荷されているが、同一品種で、60にも及ぶ等・階級の組み合わせが見られた。

6. 重回帰分析で福岡県の1生産者の品種「はるのか」の等・階級「秀 M」の1日後の平均kg単価の説明を試みた。分析の結果、重相関係数0.994、説明率98.8%であった。影響の大きかった要因は、予測日の前1週間のイチゴ全体の平均単価であった。

結 言

青果物の需要の価格弾性値は小さく、ひとたび品薄となれば高騰し、また逆に、供給が少しでも過剰になると暴落するといった激しい値動きをする。市場関係者によれば、卸売市場に入荷する量が1割減少すると価格は3割アップし、入荷量が3割増加すると、価格は5割ダウンするといわれることでも明らかである。これでは生産者は安心した生産は続けられず、規模の拡大もままならない。消費者にとっても青果物の高騰は家計を圧迫する。青果物の価格の安定は生産者、消費者ともに望むところである。

せめて数日先の価格でも予測できれば、収穫日を前後させたり、貯蔵するといった方法で短期的な出荷調整は可能である。更に1週間先の予測が可能となれば、予約相対による取引が現在よりもスムーズに行なわれるようになり、需要に見合った供給が行なわれ、価格安定に寄与することが期待できる。しかしながら、従来この種の研究は困難を極めるのが常である。

そこで、このような価格の予測に先立って本研究では、情報化の進む先進の卸売会社と産地の協力を得て、青果物の卸売市場における大量の売立情報を価格予測の対象データとすることについて検討した。その結果、先の第一報¹⁾では、MTベースのデータを大型電子計算機とパーソナルコンピュータで数段階にわけて処理すれば利用でき、しかも、キャベツの価格分析を通して、利用価値の高いことが示唆された。本報では、先の第一報と同じ卸売市場の昭和58年1年間分の売立情報を第一報で示した方法を使って、今後も需要が伸び、

表1 イチゴの競合品としてとりあげた品名一覧

競合品 A (ミカン)	ジョナゴールド	ワセネーブル	ジュンコーカン	ルナメロン	サンキスイカ	ベニズ	ナゾクモモ	サンセーキナシ
ミカン	ヨウナゴールド	ワセネーブル	セミール	シラユキメロン	ゴールキョクト	ハウスビオーネ	ナゾクモモ	ヤクモナシ
ワセミカン	フジリンゴ	ハウスネーブル	カワチパンカン	ハニメロン	ヒノヤマスイカ	ブドー	アリマハクモ	キクスイナシ
チュウセイミカン	サンフジ	オレンジャーA	カラ	シンジュメロン	フジヒカリ	ブドーA	ヤマカハクモ	ハチコウ
フツウミカン	ベニフジ	ワシントン	ヤラハ	マイアミメロン	コダマスイカ	ブドーN	ハシバハクモ	ナシ
ニウケイミカン	ムツリンゴ	シラヤナギ	オオツ 20	トウホウメロン	ペニコダマ	イズニシキ	ヤマネウセモ	セシリウナシ
アホジマミカン	ムダーイムツ	モリタナギ	キヨミ	ロクナナオレンチ	オレンチ	スチューベン	アカツキモモ	競合品 I (サクラナシ)
イソノミカン	オレドール	パレンシア	ベニコナツ	アイボリメロン	タバタスイカ	レッドクイーン	ヤマカワセモ	サクラナシ
イマミミカン	レッドリンゴ	ニューサンマ	サンクタイン	コザックメロン	イブススイカ	競合品 G (モモ)	ネクタリン	セネカサクラナシ
オキツミカン	オオリンゴ	フクハラオレンチ	ミジョウカン	アンデスメロン	ジャルマンスイカ	競合品 F (ブドウ)	オキツネクタリン	ハクリューサクラ
ムカイヤマミカン	メグミリンゴ	イヨカン	ナダオレンチ	アムスメロン	競合品 E (スイカ)	モモ	ジュウホー	ヒノデサクラ
ナシカン20	キンレイリンゴ	ワセ イヨカン	オレンチ	スパーメロン	ベリA	ゴクワセモ	フレバトッブ	ジャボレー
リツアーリー	ツガル	ミヤウチヨカン	オレンチ	メロン	GペリーA	スノモモ	競合品 H (ナシ)	オオムラサキ
アーリオレンチ	サンツガル	オオタニヨカン	マスコット	キャンタローブ	タネアリデラ	スナゴモモ	アカナシ	ワカムラサキ
シルバー	セカイ1	リンポーカン	アソコ	メロディメロン	ハウスGデラ	フジナミモモ	チヨウジウロー	リトニシキ
ミヤガワミカン	キンセイ	ボンカン	アソコ	ババアメロン	コージュブー	クラカモモ	コースイナシ	タカサゴ
イシカワミカン	ネロー26	ボンカンT	ザツカン	チンケイメロン	キャンベルス	オオクバモモ	コースイ(ム)	ナボレオン
ハウスミカン	アカネ	ハッパク	競合品 D (メロン)	イジカワメロン	ネオマスカット	ニシノバクトー	シンスイナシ	フランスウ
ナマンミカン	カガヤキ	ノルトカン	オレンチ メロン	ポーナスメロン	ハウスネオマス	ヤマイチハクトー	シンスイ(ム)	ザオーニシキ
クノミミカン	ヒメリンゴ	グレーブ F	アールスメロン	競合品 E (スイカ)	ベリA	ワセハクトー	イシイワセナシ	キダマサクラ
ゴクワセミカン	オトメリンゴ	GフルーツA	ハネジメロン	スイカ	GペリーA	ヤマハクトー	オクサンキナシ	ホツコサクラ
ハツキミカン	アオリ3ゴウ	GフルーツI	ユウバリメロン	シマオオスイカ	キョホー	ヤマトハクトー	ワセコーゾウ	チェリー
競合品 B (リンゴ)	マヘ7ゴウ	GフルーツM	アールスA	キョクトスイカ	タカオ	コーヨウハクトー	オクサンキナシ	競合品 J (キウイ)
リンゴ	競合品 C (中晩柑)	GフルーツAF	HDメロンA	キョクトスイカ	ベニフジ	オカヤマハクトー	キミツカワセナシ	キーウイ
ハツアキ	ナツミカン	GフルーツIX	HDメロンM	テンリュウ 1	ハウスキョホウ	イチミヤハクトー	シンコウナシ	キーウイN
コツコリンゴ	サニ	GフルーツJ	HDメロンN	テンリュウ 2	アレキ	カンジチハクトー	ワセアカナシ	キーウイA
ベニコツコ	リマアレンチ	AMCGフルーツ	プリンスメロン	アケボノスイカ	ビッテロ	ナカツハクトー	ヨシノナシ	
イワイリンゴ	アマナツカン	GULDフルーツ	ホームランメロン	リンザンスイカ	アルホンス	ハクトー	ニイタナシ	
アサヒリンゴ	ワセアマナツカン	DMCGフルーツ	スライメロン	クリームスイカ	ベニマスカット	オクハクトー	スィーワナシ	
インドリンゴ	ジュージ	ブンタン	スベインメロン	フケンスイカ	ヒムロツ	コダイラワセ	クセイナシ	
デリシャス	サンフルーツ	ザボン	トシヨメロン	キャンピオン	シトロネル	ヤザキワセモ	チウウジュ	
スターキング	タチバナ	バンペイユ	アスコットメロン	ニッショースイカ	ナイヤガラ	ヤマツモリワセモ	シンチュウ	
リチャード	ベニアマナツ	ボメロ	エリザベス	ミヤコニシキ	タノレド	ジャズモモ	ヤギミ	
レッドキング	オオアミナシ	マルメラ	サンライズ	ジュウヨウ	スーパーH	シズモモ	ホースイナシ	
ゴールドデン	スルガ エレ	コバヤシカン	クレオパトラ	シマオオマックス	ヒロハバクトー	ババハクトー	ホースイ(ム)	
ムダイゴール	ネーブル	キンコージ	ニホンイチメロン	マックス KE	カイジ	ハクホー	20セーキナシ	
ピンクゴール	ウグモリ	ゴールド	キングメロン	レモニー	オリビア	ヒノデモモ	シンセーキナシ	
		アンセイカン	キングメルチー	キンセントスイカ	ビオーネ	キントー	ワセ20セーキ	

しかも他の品目より品種の多様化が目立つイチゴの、市場における特徴と価格の分析を行なった。

データ処理方法

1. 供試データ

本研究のデータに直接用いた素データは第一報と同じで、昭和58年1月から12月までの1年間の我が国でも代表的な東京都の某卸売市場の荷受会社の売立情報である。

2. 処理手順

第一処理

磁気テープの中のデータを名古屋大学大型計算機センターの磁気ディスクに読み込み、その中から表3に示したイチゴ、及び表1に示したイチゴの価格に影響を与えていると思われる品目(以下競合品とする)を拾い上げ、それ以外の果物、野菜類は取り除いた。

第二処理

第一処理で拾い上げたデータを1日分毎に読み出した。

1) イチゴ

22品種毎に入荷量と平均kg単価を算出した。品名、生産者、等級、階級、kg単価、出荷県、荷姿、セリ人、委託・買付の区分、個選・共選の区分、重要野菜・契約野菜・全農指定の区分、転送・予約相対・先物・残品相対・買入小数競り不成立の区分、箱売り・kg売りの区分、これらすべてが等しいデータをひとつにまとめ、その際に重量と金額をたしこんだ。さらに買受人を仲卸人、買参人、それ以外の3つに分け、それぞれの人数を求めた。

2) 競合品

競合品は卸売市場の専門家の意見を参考にし選出した。A. 普通みかん, B. りんご, C. 中晩柑類, D. メロン類, E. スイカ, F. ブドウ, G. モモ, H. ナシ, I. サクランボ, J. キウイの10グループに仕分けし、グループ毎に総入荷量と平均kg単価を求めた。

第三処理

1) 第二処理で加工したデータから月々の生産者毎の入荷量を算出し、月毎に入荷量の多いものから順に並びかえ、入荷量が全体の50%を超えるまでの生産者を拾い上げた。

2) 月毎に拾い上げた生産者は12ヶ月分では70に達したが重複しているものもあり、年間では33の生産者となった。

3) この33の生産者のデータを第二処理で加工したデータより抽出し、1日分毎に重なるデータは1つとし、データの圧縮を行なった。

4) 要因分析を行なうに際し、大型計算機では手続がいろいろと煩雑な場合、パーソナルコンピューター(日本電気製PC-9801F)で分析を行なうため、名古屋大学大型計算機センターの磁気ディスク上のファイルからフロッピーディスクへファイルの転送を行なった。

表2 特定出荷者の品種「はるのか」、等・階級「秀 M」の価格予測に取り上げた要因

-
- 週平均価格
 - 特定出荷者の品種「はるのか」、等・階級「秀 M」の入荷量(きょう~4日前)
 - 特定出荷者の品種「はるのか」、等・階級「秀 M」の平均単価(きょう~4日前)
 - 買受人に占める仲卸人の数(きょう~4日前)
 - 買受人に占める買参人の数(きょう~4日前)
 - 品種「はるのか」の1日の総入荷量(きょう~4日前)
 - 品種「はるのか」の1日の平均単価(きょう~4日前)
 - イチゴ全体の1日の総入荷量(きょう~4日前)
 - イチゴ全体の1日の平均単価(きょう~4日前)
 - 競合品(ミカン)の1日の総入荷量(きょう~1日前)
 - 競合品(ミカン)の1日の平均単価(きょう~1日前)
 - 競合品(リンゴ)の1日の総入荷量(きょう~1日前)
 - 競合品(リンゴ)の1日の平均単価(きょう~1日前)
-

3. 要因の分析

次の各項目について算出し分析を行なった。

- 1) 品種毎の月別平均kg単価及び総入荷量
 - 2) 品種毎の各生産県別年間入荷量
 - 3) イチゴ全体の月別平均kg単価及び総入荷量
 - 4) 入荷量の多い品種、特徴的な品種の最も入荷量の多い等・階級の組み合わせについて出荷者別月間平均kg単価及び総入荷量
 - 5) イチゴ全体で入荷量1位の生産者の品種別、等・階級毎の月別平均kg単価及び入荷量
- また、重回帰分析で1日後の平均kg単価の予測式について検討した。取り上げた要因は、表2に示した。

結果及び考察

1. 品種毎の供給時期と価格

品種毎の月別平均kg単価及び入荷量を表3に示した。入荷量の多い品種を順にあげると、「はるのか」(年間イチゴ取り扱い量の25.0%)、「ダナー」(同17.8%)、「麗紅」(同16.4%)、「宝交」(同13.6%)の順となった。この4品種で、入荷量の

表3 イチゴの品種毎の月別平均kg単価及び入荷量(東京荷受一社, 1983年)

品名	年間(kg)												上段：入荷量 下段：平均kg単価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12(月)	
ダナー	822.1 1065	7874.4 1019	44999.8 918	68180.8 748	14454.8 691	389.1 384	12.3 361	—	—	0.6 2143	19.9 1229	55.5 1851	136809.3
モリオカ16	—	—	—	258.8 895	14322.3 925	24281.1 698	9431.7 1693	1199.3 1789	60.7 1629	265.5 3010	120.3 1960	—	49939.7
モリオカ19	—	—	—	653 —	3026.6 718	204.6 860	—	—	32.7 1751	1517.5 3385	335.5 2052	4.2 1438	5142.8
ホウギョク	4795.8 1504	4007.9 1603	4635.9 1538	3335.4 1011	33.9 900	—	—	—	—	—	5.2 3182	1941.9 3821	18755.9
ハルノカ	54433.5 951	46019.0 766	47878.8 577	6493.2 412	—	—	—	—	—	—	575.4 1960	36870.4 3178	192270.3
スルガユース	2962.6 1053	1688.4 912	3773.2 784	2686.8 567	26.5 456	—	—	—	—	—	22.0 1952	5103.0 3449	16262.5
ハルヨイイチゴ	12098.0 1111	11687.5 945	13495.9 883	4701.6 560	493.2 413	—	—	—	—	—	1.4 903	1821.5 2170	44299.1
ヒメソダチ	—	43.4 602	13.7 392	5.7 143	—	—	—	—	—	—	—	—	62.8
シズタカラ	4590.4 1112	4351.6 980	2590.7 968	1057.9 438	—	—	—	—	—	—	—	2322.8 2318	14913.3
シズノカ	11.2 909	2.2 728	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13.4
イチゴ	3655.7 1076	2741.1 865	1257.5 761	688.5 559	967.8 667	70.7 626	411.4 1467	323.2 2795	477.6 2604	1010.6 3342	811.8 1460	3116.6 2098	15538.5
レイコウイチゴ	17676.3 1132	41635.5 949	37252.1 950	22425.6 648	7175.0 548	—	—	—	—	19.1 2291	3.8 1100	177.1 2325	126364.4
ホーローイチゴ	22007.3 1156	26317.6 965	11763.2 911	1639.5 458	4027.9 469	100.8 208	—	—	55.1 2503	9286.7 2519	19641.2 1550	9701.4 2421	104540.6
ハニーベリー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.3 1563	14843.3 1605	14316.6 2571	29167.2
メイホウイチゴ	4391.2 1271	5441.7 1078	4507.7 1045	1008.6 654	1565.4 651	—	—	—	—	—	0.9 1317	428.9 2172	17344.4
	127444.1	151816.2	172168.5	112504.1	46093.4	25046.3	9855.4	1522.5	626.1	12107.2	36380.7	75860.0	771424.5

72.8%を占めた。また、月別に品種毎の平均kg単価を比較すると、「芳玉」、「明宝」、「盛岡16号」、「盛岡19号」といった入荷量の多くない品種が高値となっていることがわかった。各品種の出荷最盛期は「はるのか」が1, 2, 3月, 「ダナー」が3, 4月, 「麗紅」2月, 「宝交」2, 11月, 「盛岡16号」6月などとなっており品種, 産地の特性によって周年供給されている。

2. 主な品種の供給県

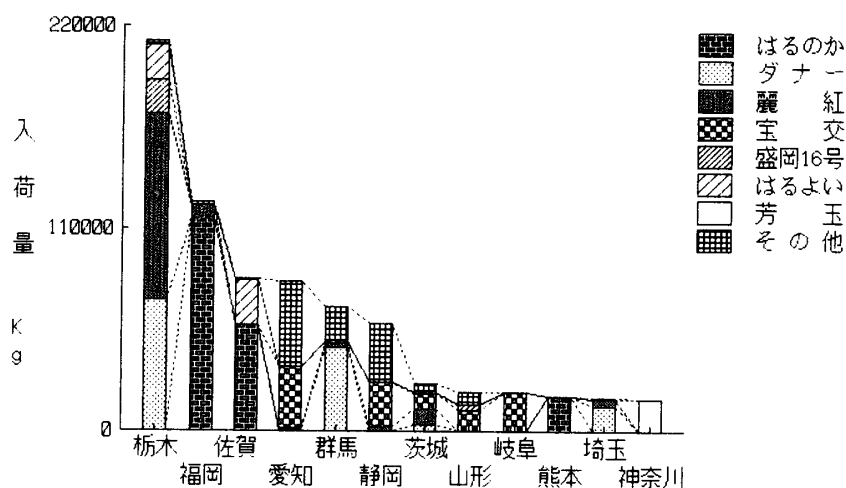


図1 イチゴの主な品種の東京市場への県別入荷量 (1983年)

東京市場への品種毎の各生産県別年間入荷量を図1に示した。主な品種の生産県を見てみると「ダナー」は関東を中心に, 「はるのか」は九州, 「麗紅」は関東を中心にそれぞれ以西, 「宝交」は中部を中心に北海道を除いた全県に分布している。また夏場を中心に生産され, 市場入荷する「盛岡16号」は東北を中心としている。生産県別年間入荷量は上位から順に栃木県, 福岡県, 佐賀県, 愛知県, 群馬県の順である。イチゴは, 従来輸送耐性が比較的低いといわれていたが, 既に一般青果物と同様に広域流通していることが認められた。

3. イチゴ全体と品種毎の価格の違い

イチゴ全体の月別入荷量を図2に, イチゴ全体と, 「はるのか」, 「盛岡16号」の月別平均kg単価を図3に示した。イチゴ全体の入荷量の時系列パターンはおおむね3月を最高, 8月を最低とする逆S字カーブを描くのに対し, 平均kg単価はおおむねS字カーブを描いた。また, 平均kg単価の時系列パターンは, 他の品種も全て同一で, 品種特有の傾向は認められなかった。これは, 「盛岡16号」が, 夏の主力品種であり, また, 「はるのか」が, 年間入荷量の最も多い品種であることから当然ではあるが, 他の品種についてもイチゴ全体と品種毎の価格変動の違いは認められなかつ

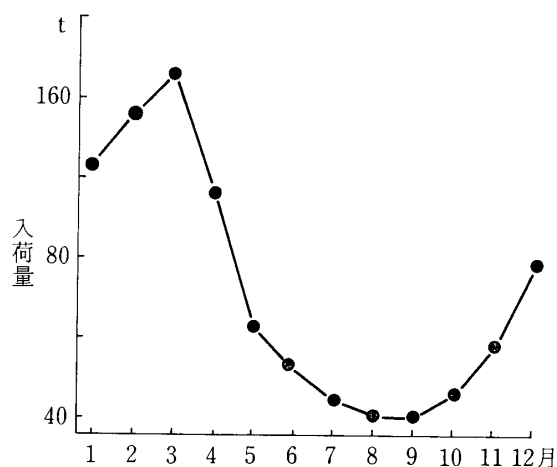


図2 イチゴ全体の月別入荷量の変動

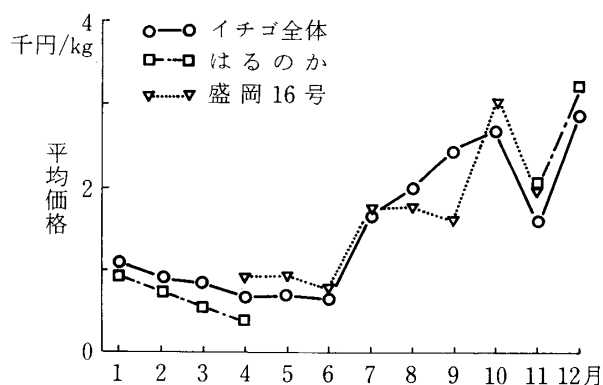


図3 イチゴ全体, 「はるのか」, 「盛岡16号」の月別平均価格の変動

た。

4. 等・階級の組み合わせ数と価格差

セリは生産者毎に等級、階級別に行なわれるが、年間を通じ最大の入荷量となる品種「はるのか」の等・階級の組み合わせを調べたところ、延べ320にも及んだ。これは、等級でいえば、秀・優・A, B, 秀SP, まる, 無印, 秀SD等々, また、階級では、2L, L, M, S, A, B, C, 15玉等々の種々雑多な呼称があり、等級と階級の欄に記入されている名称のすべての組み合わせの数を数え上げればこのように極めて多い数となるものである。この組み合わせ数は、一出荷者でみても多い。一年間に入荷したイチゴの出荷者は179に上るが、このうち年間を通じて最も入荷量の多かったのは栃木県の一出荷者であり、これはイチゴ全量の4.8%であった。この出荷者からは7ヶ月に亘って5品種が出荷されているが、一品種でも60に及ぶ等・階級の組み合わせも見られた。

「はるのか」の等・階級の組み合わせのうち、最も入荷量の多い等・階級の組み合わせは「秀 M」であり、38,030kgと「はるのか」全量の約20%を占めた。この「秀 M」について、生産者毎に月平均kg単価を比較すると、個々の生産者が出荷した量とその平均kg単価との間の関係は認められなかった。また、生産者の違いによる最高値と最安値を比較した場合、表4に示したように最安値は最高値の60~80%であったが、12月は35%と大きな価格差があった。また、夏場を中心として出荷されている「盛岡16号」の等・階級の組み合わせは延べ159であった。この中で最も入荷量の多い等・階級の組み合わせは「無印 M」で、全量の約20%を占めた。これにも「はるのか」と同様に出荷量と平均kg単価の関係は認められなかった。また生産者の違いによる価格差は、表5に示したように安い生産者のイチゴは、最高値の15~75%と月毎に異なった。

5. 重回帰分析による予測式

重回帰分析で1日後の平均kg単価の説明を試みた。重回帰分析では質に関するデータは取り扱いえないため、品種、等・階級は最も入荷量の多い品種「はるのか」の等・階級「秀 M」とした。出荷者はこの組み合わせを1番多く出荷している福岡県の1出荷者とした。なお、他の質に関するデータは無視した。その結果を表6に示した。重相関係数は0.994で説明率98.8%となった。要因の影響の大きさを、偏相関係数の大きさでみると、予測日の前1週間のイチゴ全体の平均単価、次いで、その出荷者の3日前、2日前の平均価格が大きく、前数日間の価格がセリ値に大きな影響を与えているといえよう。しかし、説明率は高くても、推定値と実際の価格には大きな価格差を生じることが多い。この他の質的な要因の分析も進め、予測式の精度を高める必要がある。

表4 「はるのか」の等級「秀」階級「M」の月別最高値と最安値の比較

月	最高値	最安値	最安値/最高値
1	1134	920	0.81
2	1100	734	0.67
3	933	545	0.58
4	567	425	0.75
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
11	2556	1833	0.72
12	6622	2333	0.35

表5 「盛岡16号」の等級「秀」階級「M」の月別最高値と最安値の比較

月	最高値	最安値	最安値/最高値
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4	1443	1000	0.69
5	1640	657	0.40
6	1243	286	0.23
7	5714	857	0.15
8	5397	—	—
9	4308	3218	0.75
10	2616	1333	0.51
11	6622	2333	0.35
12	—	—	—

表6 要因分析の結果

要	因	偏回帰係数	標準偏回帰係数	偏相関係数
きょうのイチゴ全体の平均単価		3.25198	1.77284	0.42016
週平均価格		2.23778	1.06636	0.88772
3日前の「はるのか」の平均単価		1.46985	0.69442	0.37259
1日前の「はるのか」の平均単価		-0.92940	-0.56845	-0.18402
3日前の特定出荷者の「はるのか」の「秀 M」の平均単価		-0.68531	-0.50341	-0.67305
4日前のイチゴ全体の平均単価		-0.96855	-0.46198	-0.34114
3日前のイチゴ全体の平均単価		-1.05482	-0.45265	-0.28049
きょうの競合品（ミカン）の総入荷量		-0.02377	-0.44466	-0.29764
2日前の「はるのか」の平均単価		-0.79557	-0.41690	-0.24121
2日前のイチゴ全体の平均単価		0.86181	0.39952	0.22256
きょうの競合品（リンゴ）の平均単価		-4.82020	-0.29891	-0.41624
2日前の特定出荷者の「はるのか」の「秀 M」の平均単価		-0.31794	-0.27183	-0.42883
4日前の特定出荷者の「はるのか」の「秀 M」の平均単価		0.32164	0.25529	0.38425
重相関係数		0.99403		
説明率		98.8	%	

謝 辞

研究の遂行にあたって、東京青果株式会社、名古屋中央青果株式会社及び愛知県経済農業協同組合連合会に研究費の助成をいただいた。東京青果の小原文夫電算機部長、名古屋中央青果の堀部一三電算部長及び愛知経済連の加古武万電算部長には、研究内容に関する種々の貴重な御教示と調査の便宜を賜った。ここに記して感謝の意を表します。

文 献

- 1) 秋元浩一・黒田佐俊・土屋智裕・石代正義：青果物の卸売価格の予測に関する研究（第1報）—卸売市場における売り立て情報の検討とキャベツの卸売価格の要因分析—，岐阜大農研報（50）：67-75，1985
- 2) 永木正和：“野菜の価格と市場対応”東京：明文書房，1982.